avant-garde

北園 克衛

(furusato no kaze)

ふるさとの風 ―

september 長月

BLUE

いま
去っていく秋の
ブルーの風
の
なかに
いて
ジャコメッティの
青銅の彫像
の
ように

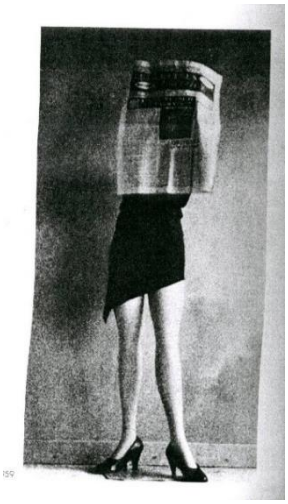
孤独
の
憂鬱
の
直線
の
ブルーの長い影
を曳き

白とブルー
の
縞
にみちた
海
のブルー
を
見ている人の
細い背中
も
ブルーである

絵画をみるようである――。

名詞が多く動詞の少ない彼の詩は果てしなく空想の世界へと導く。

「私は新しいカンバスの上にブラッシで絵を描くように原稿紙の上に鮮明なイメヂをもった文字を選んで、たとえばパウル・クレエの絵のような簡潔をもった詩を書いていった。」



北園克衛は色としては白とブルーである。
彼はフランス語でいう明晰さ（clarte′）を愛する
ちょっともの足りないほど淡白である。
そこには爽やかな空気が流れている。
それが彼の詩の内容のすべてである。　　―黒田 維理―

北園克衛の出発は詩集「白のアルバム」

「白」のイメージは伊勢の伝統の色・神道の色。

伊勢には偉大な彫刻家である兄橋本平八の存在がある。

「私のすべての作品を着色している色彩は、私の幼年期から少年期の眼に映った朝熊村の色であると思っている」

戦後一度も故郷に帰ったことのない彼だが心のなかでの朝熊村を何よりも大切に思っていた。

北園克衛（1902―1978年）詩人・編集者・イラストレーター・グラフィックデザイナー･･･。

しかし最後まで「詩人」というたったひとつの肩書きを守り通した。

彫刻家の兄・橋本平八とは異色の芸術家兄弟といわれ、今なお注目を浴びている。

◆ 北園克衛全詩集（北園克衛／〔著〕　藤富保男／編　沖積舎　L915／キ）

◆ 北園克衛全評論集（北園克衛／著　鶴岡善久／編　沖積舎　L946／キ）

◆ カバンのなかの月夜　北園克衛の造型詩
（北園克衛／〔撮影〕　金澤一志／監修　国書刊行会　L748／キ）

図書館だより
2010年9月号より